

偽翼



I got new wings...

Blue wings flown and
arranged to where to where...

著：サーシャ

I want to be Snow

雪になりたい

枯れ木が悠長に白に埋もれ
その長い体に薄い光が差して青い影ができる

その影を映す
一粒の小さな小さな雪になりたい

とけてきえてなくなるまで
一粒の冷たい冷たい雪になりたい

枯れ木が悠久の白に包まれ
その長身を覆い一面を白銀に染めて影絵をつくろう

いつか誰かが描いた
一枚の美しい美しい雪原をつくろう

とけてきえてなくなるまで
一時の静かな静かな雪原をつくろう

そして一生を終える雪になろう

水の名は誰か決めたのか

湖畔の水をすくいあげても
この手には残らない

水滴のひとつさえも
僕を拒むかのように落ちていく

君の名前を知らないから
君たちは僕をすり抜けていくのだろうか

海が僕からひいていくのも
ひとつひとつの君たちを知らないから

1滴の君には名前があるのだろう...
大きなひとつにも名前があるのだろう...

水が海が川が僕を認めないのは
君たちが僕の名前を知らないのと一緒

湖畔の水をすくいあげて
この手を見してみる

水滴さえもこの手には残らない

僕は名前を知らない君を見つけるから
どうか次にすくうときは君をこの手に掴んでいたい

天使の数え唄

一歩進んで微笑みを
二歩進んで涙をぬぐい
三歩進んで優しく告げる
四歩進んで泣かないで
五歩進んで真実だから
六歩進んで受け入れて
七歩進んで両手をさしだし
八歩進んでこの胸に
九歩進んで抱き締める
十歩進んでアナタは死んだ

十一歩進んで歪に笑い 十二歩進んで涙を頂戴
十三歩進んで甘言を 十四歩進んで耳元で囁いた
十五歩進んで救済を 十六歩進んでそれは偽善
十七歩進んで楽にしてあげる 十八歩進んで身を任せ

十九歩進んで眼を閉じて

「さあ...私に犯されて何も考えないで逝きなさい.....」

悪魔も同然の生

愛した者を忘れることは 難しくとも
殺した者を忘れることは 容易い

一心同体であった恋人に
一生涯の愛を注ぎ 一心不乱に考えていた

君を 失わない方法を

一目瞭然のこの人生
紅蓮の薔薇を咲かせ続け 戻る道を捨ててきた

お前は 俺を憎んでいるか？

愛した者を失った世界で
暗殺者は 殺し屋は 殺人鬼は

いったい...

何を得るために 生きて逝くのだろうか...

要らぬ翼

こんなモノがあったところで
何一つ変わることはない。

僕が求めるすべてをくれるのなら
僕は喜んでこの翼を差し出そう――

遥か昔。
優しき天使が地上の人を救うために、その身を犠牲にした時のように……。

僕の要らぬ翼を
必要とするものたちが雀り取って行く――。

The Sound of a Church Bell

ゴーン ゴーン ゴーン

どこからか古ぼけた教会の音が聞こえる

それは祝か？

はたまた最期の手向けか？

天を刺す十字架の上で

私はそっと重い翼を羽ばたかせた

私を縛るものだどない

地上につなぎ止めておく鎖も 枷も

ゴーン ゴーン ゴーン

飛び立った教会から鈍い鐘が鳴る

それは激励か？

はたまた無意味な願いか？

虚空を目指すこの瞳に

私はそっと光を滲ませた

私を待つ生も死もない

この命を得たその日から 私は

ゴーン ゴーン ゴーン

私は異形の天使となったのだから...